

第4回奈良市子ども・子育て会議支給認定・利用者負担検討部会の概要	
開催日時	平成26年10月10日(金) 午後1時30分～午後3時30分
開催場所	奈良市役所 北棟2階 第16会議室
議 題	1. 新制度における利用者負担の検討について 2. その他
出席者	出席委員6人(欠席委員1人)・事務局10人
開催形態	公開(傍聴者:1人)
担当課	子ども未来部子ども政策課
<b>議事の内容</b>	
1. 新制度における利用者負担の検討について 事務局より、平成27年度以降の教育・保育施設の利用者負担の考え方について、資料1から3を基に説明を行った。	
<b>〔質疑・意見の要旨〕</b>	
西山委員	奈良市内の私立幼稚園は、現在のところ認定こども園に移行しませんが、新制度における1号子どもの利用者負担額は、公私立幼稚園、こども園ともに同額であるべきです。
藤本委員	今のところ、保護者からの質問等はあまりありませんが、保護者にどのように説明していけばよいか、私たちも勉強しながら園長会議等で検討しているところです。
掘越委員	多子軽減について、1号認定の教育標準時間の場合は、年少から小学校3年生までの範囲でということになっていて、2号認定と3号認定の場合は就学前の範囲においてということで、同じように小学校3年生までという形で揃えることは可能なのでしょうか。
亀本委員	保護者の団体として、アンケート等を集約しているところなのですが、未だに保育料の値下げをして欲しいという声が多いです。奈良市においては、保育所を申し込む際の時間制限について、現行の96時間を10年間段階的に引き下げるとは言っていますが、踏襲するという事は今と変わりません。結局負担だけ上がって何がよくなったのでしょうか。これは便乗値上げとしか言いようがないです。この値上げの仕方も年収の高い層についてはほとんどがスライドで、逆に低い層になると、かなり負担が上がるとい状況です。これだけ厳しい経済環境の中で、今あえてその辺りの層に対して負担感を押し付けるというのはいかがなものかと思います。
事務局	包括外部監査において、全体の保育料を見ていったときのバランスとし

て、見直した方がよいのではないかという階層もあり、他市の平均と比べて、大きく差がある階層を上げていますので、全部を上げているのではなく、最小限必要な階層について上げさせていただくということで内部で議論を行いました。

亀本委員 財政との兼ね合いや、単に指摘されたからそこを上げますという発想ではなく、しっかりと理念を持って守るべき所は守る。奈良市のよさはどこにあるのか。他市とも似たような負担感で、中身もあまり変わらず、制度は変わって負担は増えたけれどその人たちにとってよかったとは思えません。

掘越委員 国の基準とは違いますが、奈良市として67.5くらいを目指して、金額設定を考えていることは大変なご苦労だと思います。負担が増えるのであれば、市としてのビジョンを伝えた上で丁寧に説明するということが必要でしょうし、なかなかそこも厳しい層に対してはどう対応していくかということも併せてご検討いただけたらと思います。

部会長 奈良市として質的な事にしろ中身にしろ、説明ができるようにしていかないと、ただ値段が上がりましただけではいけないのではないかという感じがします。そのあたりも含めてご検討いただけたらと思います。他市のことも数字だけではなく、中身や市の方向性を含めて見ないと数字だけ比較しても意味が見えてこないです。

## 2. その他

事務局より、次回会議の日程について説明を行った。

資料	<p>【資料1】仮利用者負担額（仮保育料）の検討について</p> <p>【資料2】奈良市の仮利用者負担額（仮保育料）案について</p> <p>【資料3】奈良市の仮利用者負担額（仮保育料）案月額表</p>
----	---